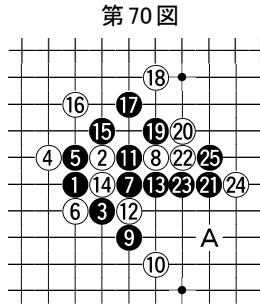


浦月四題目の解明 (8)

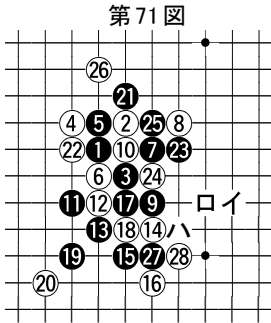
九段 河村典彦

【第70図】前回の続き。白10の変化。白10の完全には利かされないので打ちたくはないが、やむを得ない。

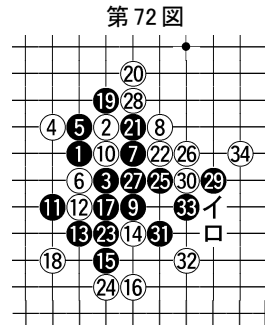


この防ぎには黒11と打ち、黒13と引く形が好形となる。黒15から手順に引いていけるので、それほど難しくはないだろう。黒19のミセ手から黒21と飛び出す形は、勝ちの基本形である。何気ないようでも連珠の知識がないと打てない。黒25後Aとなる。

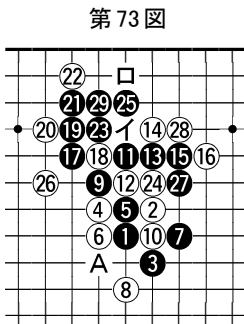
【第71図】白10の変化。結局、こういう手が強い。これに対しては、もう一手黒11と力を蓄えておく。白12も強く、さらにもう一手我慢する。白14の止めを待って、黒15、17と構えるのが絶好だ。ここまでは白18なら、黒19と一本引き、黒21と思わぬ所にミセるのが、白の意表を突いた攻撃となる。この手はうまく左右を連結させる手筋で、黒23、25を可能にしている。黒29からイロハ。



【第72図】白18の変化。白18は黒の力筋を止めた手で、この防ぎも強い。この手に対しても黒19と左右を連結させる。今度は黒21と打った手が含まみ手になっている。白22が最強だが、黒23から惜しげもなく四ノビを使って引いていく。白28でノリ手になりそうだが、黒29があるので大丈夫。黒33まで打ち、黒35よりイロハ。



【第73図】白6の変化。この6も4とつながっており、警戒が必要。Aなら斜月外伝、9なら斜月定石に戻るが、せつかくならもつとい手を探したい。そこで有力なのが黒7と打つ手だ。白の連を放置しても、黒の連を作ることでそれを無力化しようという狙いである。対して白も8と三々を止めておく手が自然で強い。ここでいろいろ考えられるが、結局は黒9と押さえておくのが良さそうだ。黒7で打つよりいい形になっている。白10は見るからに最強防である。ここでもらった先手を使って黒は上辺に展開する。黒11、13が良くある手筋である。白14と止める手が

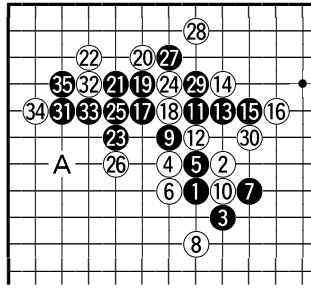


【第74図】白6の変化。この6も4とつながっており、警戒が必要。Aなら斜月外伝、9なら斜月定石に戻るが、せつかくならもつとい手を探したい。そこで有力なのが黒7と打つ手だ。白の連を放置しても、黒の連を作ることでそれを無力化しようという狙いである。対して白も8と三々を止めておく手が自然で強い。ここでいろいろ考えられるが、結局は黒9と押さえておくのが良さそうだ。黒7で打つよりいい形になっている。白10は見るからに最強防である。ここでもらった先手を使って黒は上辺に展開する。黒11、13が良くある手筋である。白14と止める手が

さらに強く、一直線では勝ちが出ない。そこで、一本黒15と引き、黒17、19と押さえておく。白16を反対は追い勝ちがある。

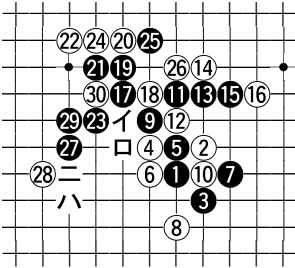
白20の叩きなら、黒21と引いてようやく勝ちが出る。一本黒27が引けるのが大きく、黒29後イロとなる。

第74図



があるからである。

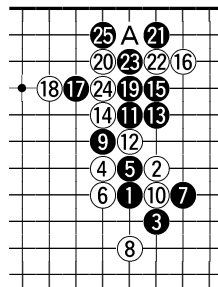
第75図



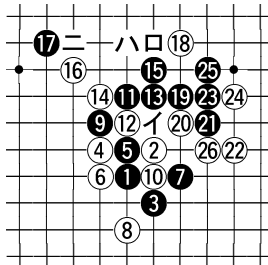
【第75図】白24の変化。白24と引かれると、一瞬ドキツとする。ここは冷静に黒25と止めておいて良い。いずれ白は防ぎに来なければならぬ。白26と左右の連絡を絶てば、黒27から左辺に展開する。黒29と引いて、31からイロハの四追いは見えにくいが止めることもできない。

【第76図】白14の変化。この14も普通に強い。当然黒15と引くことになるが、白が17と伸びなければ黒17と叩いておく。白18と止められても黒19と四つ目に組んでおく。盤端まで距離があるため、ここで四つ目に組まれては白止めようがない。白20と止めても、黒21と飛ばせば以下容易である。黒25後Aまで。

第76図

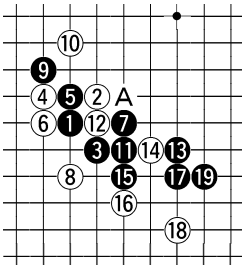


第77図



【第77図】白16と先に四ノビをしてきたら、今度は黒19に構える。白20が強そうだが、黒21と引いて上下どちらかで勝ちが出る。白22の止めなら、黒23、25と引いて以下イロハニの四追いとなる。黒17と四を止めた手がちゃんと役に立っているのがわかるだろう。

第78図



【第78図】白10の変化。白10と完全に上辺への進出を遮断するのも強そうだが、これには右辺で勝てる。黒11と先手でここに打てればしめたものだ。黒13と先に飛んで、黒15から引けば間違いない。黒19後A。白14を外止めなら、黒Aと引けば良いだろう。